

Collège de France
Philologie de la civilisation japonaise
Cours du 12 février 2013

Le Go-Shûi-waka-shû
Seconde partie:
Les rubriques des Dieux
et de la Doctrine bouddhique

- *jingi* 神祇
- *shakkyô* 釈教
- *ara-hito-kami* 現人神 一 荒人神
- *aki-tsu-kami* 現つ神
- *gongen* 権現
- *takusen* 託宣
- *butsu-bosatsu* 佛菩薩
- *shin-butsu* 神仏
- *shintô / jindô* 神道
- *butsudô* 仏道
- *kadô* 歌道

- 1160
- いつき 齋宮
- 媯子内親王
- 長元四年六月十七日伊勢のいつき内宮に参りて侍りけるに俄に雨ふり風吹きていつきみづから託宣して祭主輔親をめしておほやけの御事など仰せられけるついでにたび／＼御みきめしてかはらけ給はすとてよませ給ひける
- さか月にさやけき影のみえぬれば
ちりの恐りはあらじとを志れ

• 1161 祭主輔親

御返りたてまつりける

おほち父うまごすけちか三代迄に

いただきまつるすべらおほむ神

• 1162 和泉式部

男に忘られて侍りける頃貴ぶねにまゐりてみたらし川に螢
のとび侍りけるを見て詠める

もの思へば澤のほたるも我身より

あくがれ出づる玉かとぞみる

• 1163 御かへし

奥山にたぎりて落つる瀧つ瀬の

玉ちるばかり物な思ひそ

此の歌はきぶねの明神の御返しなり。男の聲にて和泉式部
が耳に聞えけるとなむいひつたへたる。

• 1164 藤原長能

世中さわがしく侍りける時さとのとね宣旨にてまつりつかうまつ
るべきを歌ふたつなむいるべきといひければよみ侍りける

白妙の豊みてぐらをとりもちて

いはひぞそむる紫の野に

• 1165

今よりはあらぶる心ましますな花の都にやしろ
さだめつ

此歌或人云ふ、世中さわがしう侍りければ船岡のきたに今み
やといふ神をいはひておほやけも神馬たてまつりたまふとな
むいひつたへたる。

• 1167 山口重如

すみよしの宮うつりの日かきつけ侍りける

住吉の松さへかはるものならば

なにか昔の志るしならまし

• 1168 源兼澄

一條院の御時はじめて松尾の行幸侍りけるにうたふべき歌つか
うまつりけるに

ちはやぶる松の尾山のかげ見れば

けふぞ千とせのはじめなりける

• 1169 大貳實政

後三條院の御時はじめて日吉の社に行幸侍りけるにあづまあそ
びにうたふべき歌おほせごとにてよみ侍りける

あきらけき日吉の御神君がため

やまのかひある萬代やへむ

• 1170 藤原經衡

同じ御時祇園に行幸侍りけるにあづま遊びにうたふべき歌め
し侍りければよめる

ちはやぶる神の園なるひめ小松萬代ふべき始
めなりけり

Jetavana 祇園精舎 祇樹 祇園社

Anâthapindada 給孤独長者

金剛經

御靈会

牛頭天王

- 1171治部卿伊房

大原野の祭の上卿にてまゐりて侍りけるに雪の所々消えけるを
見てよみ侍りける

榊葉にふる白雪はきえぬめり

神のこゝろも今やとくらむ

- 二条のきさき

雪の内に春はきにけりうぐひすの

こほれる涙いまやとくらむ

- 慈円

見ぬむかしはるかにむすぶいはしろの

松の契もいまやとくらむ

• 1173 讀人志らず

大貳成章肥後守にて侍りける時阿蘇の社に御装束奉り侍りける
に彼の國の女のみ侍りける

天の下育くむ神のみそなれば

ゆたけにぞたつみづの廣前

羽衣

毘沙門天

慈円：

おとろふるうれへやいづく法のみちに

はらひぞすつるあまのはごろも

応身

• 1176 讀人志らず

石清水に參りて侍りける女の杉の木の本に住吉の社をいはひて侍りければやしろのはしらにかきつけて侍りける

さもこそは宿はかはらめすみ吉の

松さへ杉に成にける哉

円融

円満融通

円満無碍

• 1177 藤原時房

貴ぶねにまゐりていがき（斎垣）にかきつけ侍りける

思ふ事なる河かみにあとたれて

きぶねは人を渡す也けり

如渡得船

つなで縄くるしき海をよそにみて

うき世を渡す淀の川船

• 1178 藤原範永朝臣

後冷泉院の御時きさいの宮の歌合に春日のまつりをよみ侍りける

けふ祭るみ笠の山の神ませば

あめの下には君ぞさかえむ

• 1166 惠慶法師

稻荷によみて奉り侍りける

いなり山みづの玉垣うちたゝき

我ねぎ言を神もこたへよ

茶枳尼天

梁塵秘書

• 1172 能因法師

式部大輔資業伊豫守に侍りける時彼國の三島明神にあづま遊
びして奉りけるをよめる

うど濱に天の羽衣むかしきて

ふりけむそでやけふのはふりこ

- 1174 増基法師

八幡にまうでよみ侍りける

こゝにしもわきていでけん岩清水

神の心をくみも志らばや

- 慈円

いはし水は今いふ人のことの葉の

さながらうかぶながれなりけり

- 1175

- 蓮仲法師

住吉にまゐりてよみ侍りける

住吉の松のしづ枝に神さびて

みどりに見ゆるあけの玉がき

六角堂

月輪観

三界唯一心

- 遊女宮木

書寫のひじり結縁經供養しはべりけるに人々
あまたふせをおくりけるなかにおもふこゝろ
やありけむ、志ばしとらざりければよめる

津の國の難波のことか法ならぬ

遊び戯ぶれまでと社きけ

遊戯神通

遊戯観音